

地方企業から歓迎の声

鳥取のオロルなど前向き意向

日米両政府が18日発表した対米投融資の3事業を巡り、関心があるとされた企業からは「ぜひ参加したい」「前向きに検討」と歓迎する声が上がった。新たな調達先を確保し特定国依存の軽減につなげたり、大規模事業への参加を通じて自社の業績拡大に結びつけたいという意思もありそうだ。地方の企業も「業界の盛り上がりにもつながる」と意欲を示す。

対米投資

ガス火力発電と原油施設 連機器の供給に期待をにじ
整備に対し、日本企業は関心をもち、鳥取県内の企業も

※経済産業省の資料から作成、()内は総事業費規模

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 原油施設整備
(21億ドル、
3300億円) | ■ 商船三井
■ 日本製鉄
■ JFEスチール
■ 三井海洋開発
■ タシロ
■ 金田コーポレーション
■ オロル |
| ガス火力発電
(333億ドル、
5.2兆円) | ■ 東芝
■ 日立製作所
■ 三菱電機
■ ソフトバンクグループ
■ タシロ
■ 金田コーポレーション
■ 美和電気
■ アサヒメッキ |
| 人工ダイヤモンド製造
(6億ドル、
900億円) | ■ 旭ダイヤモンド工業
■ ノリタケ ■ タシロ
■ 金田コーポレーション
■ ワークス |

対米投融資プロジェクトに関心を示す企業

名前が挙がった。金属の表面加工を手掛けるアサヒメッキ(鳥取市南栄町)と、独自開発した金属の表面処理技術で独自ブランドを展開するオロル(同)は、経産省から対米投融資に関する打診を受け、前向きな意向を伝えた。

両社の木下淳之社長(58)は「(パイプラインなどに使われる)ステンレスの耐食性を高める処理や、自動車のエンジン主要部に使え

る合金メッキ技術などが評価されたのでは」と分析。既に同社の技術を使った提案内容を複数思い描いており「国家プロジェクトで会社の信頼を上げ、サプライヤーとして力を高めたい」と話す。

火力発電所などの大型部品を手がける金田コーポレーション(岡山県玉野市)の畑島美緒社長は「つくってきた実績のあるものが生かせる」と力を込める。

発電機や送配電設備の製造を担う三菱電機は「どういった形で協力できるかはこれからだ」とコメント。日立製作所も「詳細の検討はまだだが、リスクを徹底管理し成長につなげたい」とした。

日本製鉄とJFEスチールは鋼材の提供に関心がある。JFEの広報担当者は「ビジネス機会の拡大や、供給網の強靱化に向けた取り組みとして検討したい」と語った。

人工ダイヤモンドを使った工具を製作している旭ダイヤモンド工業は、中国以外の主な調達先として取引を考えている。事業に直接投資するわけではないが、米国から調達できれば「チャイナリスクの回避にメリットがある」(広報担当者)と期待を寄せる。陶磁器のほかに研削研磨工具などを作るノリタケ(名古屋市中区)も購入を検討する。

今回決まった3事業に大手が参加する上で、供給網を構成する中小企業の収益向上も見込めそうだ。電圧計などを製造する美和電気(川崎市)の千葉克実社長は、大手電機メーカーに機器を納入している実績から社名が挙がったとみる。「具体的に決まったことはないが、期待している」と話した。